

コミチャン4K絶賛放送中

(株)愛媛CATV

常務取締役

白石 成人



2014年3月より4Kへの挑戦が始まった

2014年3月、(株)愛媛CATVにおいて4Kビデオカメラを購入したところから、4Kへの挑戦は始まりました。業界内で「まず、カメラを買おう!」という機運の盛り上がりには背中を押されての購入でした。

①撮影を4Kで

4Kのカメラは業務用のものと民生機2台を購入しました。練習も兼ねて取材時にはできる限り4Kカメラを持っていくこととし、少しずつ素材を集めていきました。容量が大きいとかレンズが暗いとか、枝葉末節なネガティブは当社の放送現場ではタブーです。そもそも満足のいく機材で制作するのなら誰にでも出来ます。当社は1Kの時代から「弘法筆を選ばず」の精神です。

②編集しよう!

撮影素材が集まると当然、編集したくなります。というよりも、素材を保存しておくHDD容量がとてつもなく大きいので完パケにして保存容量を落としたかった、というのが本音です。当社の編集環境はもとよりMac+FinalCutです。無謀にも何のアップグレードもなく4K編集に挑みました。まともにプレビューすらできない環境で手探りの編集です。長尺は到底無理でしたので2~3分のフィラー作りから始めました。

③見てもらおう!

少しずつ出来上がってくる完パケたちを、今度は見てもらわねばなりません。当時、販売されていた4Kパネルで4Kを見せる方法はUSBメモリーなどでファイルを渡すか、YouTubeしかありません。迷うことなくYouTubeへのアップロードを開始しました。この時点で当社には放送現場も含めて4Kのテレビはおろかモニターすらありませんでした。YouTubeでの視聴環境に喜んだのは、早々と4Kパネルを買ってしまった筆者と、家電量販店の4Kテレビ販売員の皆さんでした(当時、4Kテレビを販売しても見るものがなく、お客様からのクレームになり、困っていたそうです)。

そうしてChannel4Kの試験放送が始まる頃には、YouTubeに当社が制作した30本を超える地域フィラーがアップロードされていました。

2015年7月より国内初オリジナル4K専門チャンネル開始

2015年春頃にはYouTubeのフィラーも70本を超えていましたが、Channel4Kと合わせても全てのコンテンツはあっという間に消費してしまう…。4Kパネルユーザーである私自身が、すでに4Kへのニーズを失いかけていました。

そんな時、某メーカーより4Kリアルタイムエンコーダーの低価格なものが発売になりました。以前からコミチャンの送出にもっとも必要なものはファイルベースの送出機ではなく、リアルタイムエンコーダーだという信念があり、これにはすぐ飛びつきました。しかし、どうやって番組枠を埋めるか? これを解決するのもさほどの時間はかかりませんでした。

①地上波との協力関係による国内初のオリジナル4K専門チャンネル

当社では日テレ系列の地元民放である「南海放送」との連携による「ウイットチャンネル」という自主チャンネルがありました。これはAMラジオの放送スタジオにカメラを設置し、映像＋音声でケーブルテレビ専用チャンネルとして放送するもので、24時間原則生放送を貫くラジオならではのライブ感あふれるチャンネルです。このスタジオに4Kカメラを設置することで「昨日も見た！」と言われることのない4K放送が実現したので。この「ウイット4K+」を中心に生放送を組み込む「ウイット4K+」が2015年7月にスタートしました。無論、1カメショーです。雑多なスタジオ風景は「4Kだから美しい！」という世界とはほど遠いです。でも、2Kではないのです！4Kパネルで見ると明らかに高精細な4K放送なのです。少なくとも我が家では「ウイットチャンネルを見るなら4Kで！」ということになりました。



国内初オリジナル4K専門チャンネル「ウイットチャンネル4K+」放送開始の様子



家電量販店における4Kデモ



愛媛新聞全段広告による4KのPR

②4Kオリジナルライブ放送への挑戦

「ウイット4K+」の放送が開始となって1カ月。いよいよ自分たちで4Kライブに挑戦する時がやってきました。松山まつり花火大会4K映像伝送実験です。非圧縮による光伝送により花火会場近くに設置した1台の4Kカメラからの映像はあまりにリアルで、当社オープンスタジオに集まった関係者数人は会場さながらに「たまや〜」を楽しむことが出来ました。

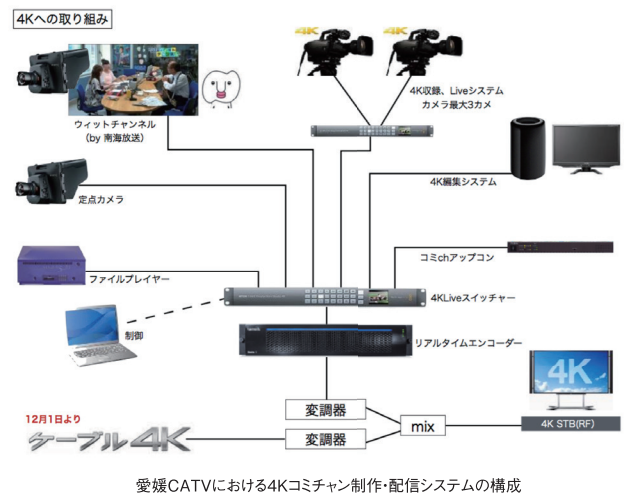
③完全なる4Kコミチャンを目指して

ライブ放送を切り替えての放送が可能になったら、次はいよいよソースの拡充です。Liveスイッチャー、ファイルプレイヤー、プレイリストの制御システム、2Kコミチャンのアップコンバーター、マルチカメラによる収録システムなどの設備を追加して、本格的なコミチャンへ



松山まつり花火大会の4K映像伝送実験

とアップグレードしたのが2015年10月でした。よく「そんなに一気に投資しましたね」と言われますが、なにを隠そう、この時、設備構築の予算として現場に許容したのは150万円です。マニアックな放送関係者からは「〇〇が××じゃないか」と突っ込まれるでしょうが、1年以上も早く地域オリジナルの4K放送が実施出来たことで、当初の投資費用はすでにペイしています。これらの機材は1年以上の間、故障することもなく元気に動いています。あとは、少しずつ必要に応じてアップグレードしていくだけでいいのです。こうして2015年10月「ウイットチャンネル4K+」は「たうんチャンネル4K」へとアップグレードを果たしたのです。



4Kテレビを購入した全てのお客様が視聴できるように

2015年12月からはご存知の通り「ケーブル4K」も放送スタートし、当社では4K 2ch体制となりました。

「たうんチャンネル4K」もその後、「秋祭り生中継」「夏祭り生中継」「マラソンゴールカメラ中継」各種イベント収録放送など、普通のコミチャンさながらに放送を継続しています。特に今年(2016年)、松山で開催された「全国合唱祭完全放送」は全国から集まった数十組のコーラスグループの表情豊かな合唱を余すことなく収録し放送させていただくことで好評を得ました。地元事務局には参加した各地域のグループから「地元で見られないのか?」という問い合わせがあったそうです。また釣りビジョン様とのコラボ番組についても、「たうんチャンネル4K」で4K番組として放送させていただくことができました。当社では2Kのコミチャンが8chほどありますが、「たうんチャンネル4K」は9つ目のコミチャンとしてしっかりカウントされています。

4Kコミチャンを立ち上げる際のポイントについて、まとめておきます。

- ・ 機材や環境を言い訳にしない。
- ・ 地元民放とのタッグでWin-Winな4Kを実現。
- ・ メーカーやベンダーに頼らないローコストな設備構築。
- ・ まず、作る、出す、見せる！

4K放送にフルアクセルを踏んできた当社ですが、致命的な課題が残っています。

2つの4Kチャンネルを、4Kテレビを買ったすべてのお客様が視聴できるようになっていないことです。RFで視聴できるSTBは無尽蔵に配布するにはあまりに高価すぎます。IPにしても回線仕様上のハードルが高いです。4K本放送に向けた仕様等、もしかしたら無駄になってしまう端末に力点が注がれなかった事情は理解できますが、こうしている間にも4Kテレビを購入したお客様が手軽な4Kソースを求めて他のインフラに移りしないうち、あまりに貧弱な4Kソース環境にいつしか自分が4Kテレビを買ったことすら忘れてしまわないだろうか、そんな思いが巡ります。

テレビ離れが叫ばれて久しいですが、4Kというリビングの大画面を必要とする絶好のソースを、テレビを生業とするすべての業界が協力をしてでも活かすべきと思うのです。すでに当社にとって「4K放送を出す」ことには特段の課題はありません。1日も早く、お客様に負担なく4Kを楽しんでいただける環境を提供したい！ただそれだけです。高度BS本放送開始はもちろん、チャンスを逃すことなくコードをつなぎとめなくては！